

## 三陸沿岸域の風土イメージの構造について

岩手大学 正員 安藤 昭  
 岩手大学 正員 佐々木 栄洋  
 岩手大学 正員 赤谷 隆一  
 岩手大学 学生員 趙 鳳威  
 岩手大学 学生員 ○堀尾 昌史

### 1.はじめに

本研究は、地域連携や地域文化の創出が重要な課題としてとらえられる近年、その基礎的研究として広域生活圏を越えるスケールとして岩手県の「三陸沿岸域」に着目し、調査を行い三陸沿岸域の風土イメージの構造を明らかにすることを目的とする。

### 2.調査対象地域の概要

三陸海岸は陸中海岸国立公園を構成する日本の代表的な外洋海岸風景地である。この海岸は宮古市を境に北部と南部で地形の成因が異なっている。宮古以北は典型的な隆起海岸で、豪壮な断崖と岩礁風景を成し、宮古以南は陸地の沈降によって出来た海岸で、リアス式海岸となっている。

### 3.調査方法

本研究は宮古以北と以南では地理的、地形的に異なっているので2地区（以下北三陸、南三陸とする）に分けて行い（図-1）、SD法と制限連想法による調査を行った。

SD法による調査では、三陸沿岸域のイメージを23個の形容詞対にし、南北それぞれの地域イメージについて7段階評価により回答してもらった。

制限連想法による調査では被験者に言葉による連想チェーンを作ってもらった。これは提示された刺激語から連想するものを語群から選び、次々と連想する語を記入してもらう（最大4語まで）ものである。調査に用いた刺激語は、三陸の風土（自然・歴史・文化・心象風景）に関する要素をもとに選定した。刺激語の数は北三陸は28語、南三陸は31語である。なお北三陸の制限連想実験は北在住者、南三陸の制限連想実験は南在住者に限り回答してもらった。

調査地域は種市町村から陸前高田市までの全14市町村とし、比例割当法により被験者数を決定した（計21

人：表-1）。調査期間は平成9年12月15日から12月19日であり、両調査とも面接調査法により行った。

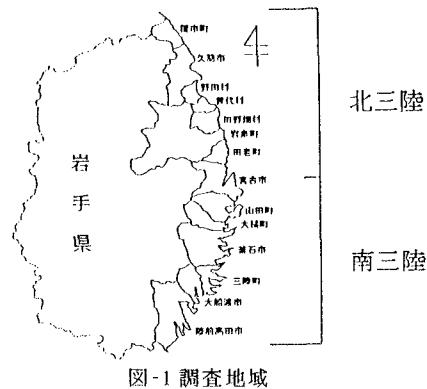


図-1 調査地域

表-1 被験者別個人属性

被験者	男	女	合計
北三陸	41人	63人	104人
南三陸	42人	66人	108人

### 4.分析結果と考察

SD法の実験結果を、7段階評価の平均値を取り図-2、3に示す。この結果より、北三陸のイメージは南三陸と比べて「雄大」「寂しい」イメージがあり、南三陸のイメージは北三陸と比べて「明るい」「軽快な」イメージがあることがわかる。また北三陸のイメージは南在住者では「個性的な」「複雑な」、南三陸のイメージは北在住者では「新しい」「都会的な」といったイメージの違いがある。三陸沿岸域全体では「美しい」「調和した」が高いイメージであり、地域別では相対的に北は暗い雰囲気、南は明るい雰囲気となる。

制限連想実験の結果を連想階層図として図-4（北三陸）、図-5（南三陸）に示す。縦軸はイメージウエイトの大きさ、矢印の向きは連想方向である。枠はク

ラスター分析によるまとめを示している。北、南三陸とも「美しい海」「のんびり・のどかな風景」の2つのイメージが高いウエイトを示し、これらの刺激語で地域が捉えられている。また、北三陸の「雄大な風景」「美しい海」は南三陸より高いウエイトを示した。南三陸では「リアス式海岸」が非常に高いウエイトを示しているのに対して、北三陸では同様の海岸の呼称である「隆起海岸」はウエイトが低い結果となった。「リアス式海岸」に比べ「隆起海岸」の地理学的名称が一般には浸透

していないと読み取れる。「浄土ヶ浜」が両方で高いウエイトを示しており、三陸沿岸の玄関口、交通の要所などの地理的に有利な条件があるためと思われる。

この結果より、北三陸は「美しい海」「漁村風景」に自然・歴史・文化など多くの刺激語から矢印が集中していることから、豊かなイメージを構築していることがわかる。一方、南三陸は「リアス式海岸」に集約されることがわかる。

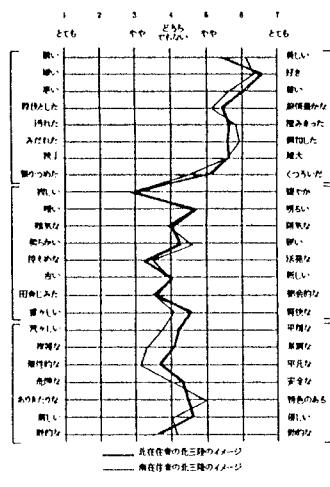


図-2 SD法の実験結果(北三陸)

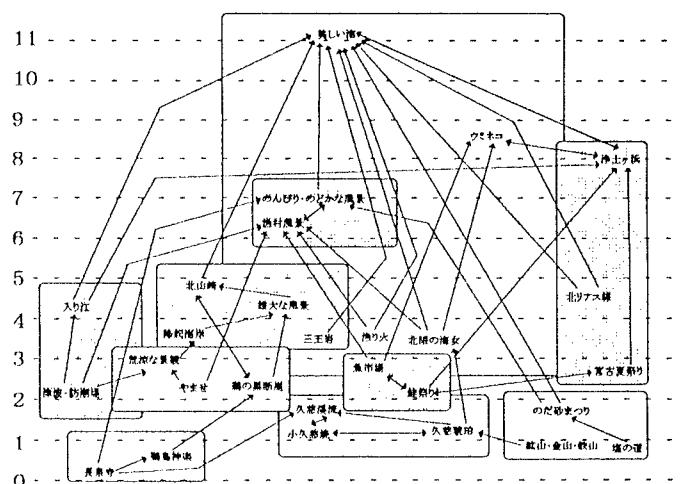


図-4 連想階層図(北三陸)

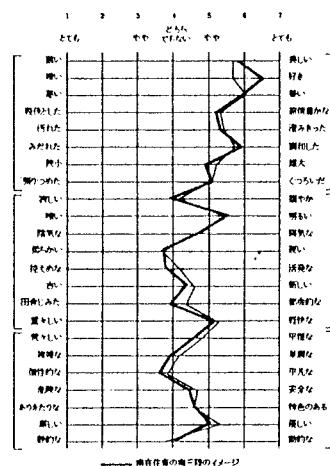


図-3 SD法の実験結果(南三陸)

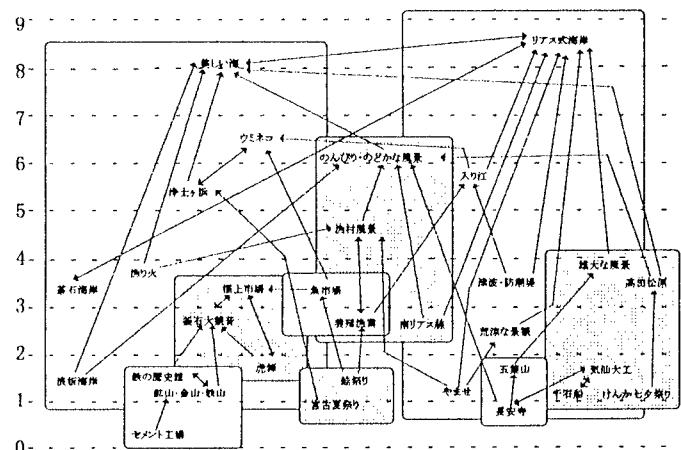


図-5 連想階層図(南三陸)